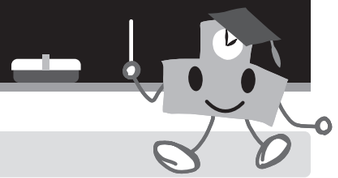
中学校の事例 中央区 中央中学校

見て、聞いて、しっかりまとめる。学んだことが確実に生徒たちの環境意識向上へ。

実際に企業を訪問し、どんなアイデアや工夫で環境保護に取組んでいるのかを知る。
学校に戻って作成する個人レポートには、真剣に聞いてきた証が満載。
自分たちに直接関わりのある事柄や取組を深く知ることにより、
環境への意識を一層高める取組に。



内容 環境に配慮している企業で見学学習

1年生が総合的な学習の時間を利用し、実際に環境に配慮した事業や活動を行っている企業へ見学学習に行っている。企業の方から話を聞く中で、どのような取組をしているのかを知り、その工夫などを学ぶ活動である。総合的な学習の時間が始まったことをきっかけに、環境に関する授業として、何年も継続している。生徒たちは、見学する日までの数時間、事前学習の中で企業についてインターネットなどを使って調べ、実際に訪問した時にする質問などを考えておく。1つの班は約7名で構成。企業の方との話し合いで、1～3グループが各企業を訪問させてもらう。時期は毎年10月下旬。

今年度の見学先は全部で16社。主に、資源リサイクル、生ごみ処理機の製造、バイオニクス、自然エネルギーなどを取り扱う企業である。

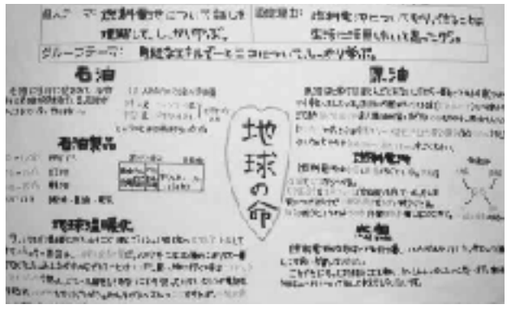
「自然エネルギー」に関する事業には、地下水を利用した冷暖房システム、小型風力発電システム、太陽光、太陽光採光システム&ヒートポンプ、クリーンディーゼル車、ハイブリッドカー、ヒートポンプ、雪氷冷熱、燃料電池、天然ガスシステム、北海道の環境対策などが含まれる。

「自然エネルギー」のレポート

効果 まとめの個人レポートには情報がぎっしり

自分たちに直接関わりのある事なので、とても真剣に企業の方の話を聞いている。ほとんどの見学は5時間目までで、その後は個人レポートとしてA3サイズの用紙に手書きでまとめていく。かなり細かい内容まで聞き取ってきており、文章や絵を使ってそれぞれが思い思いに表現している。

レポートは、各クラスの廊下の掲示板に掲示され、それぞれのグループが学習した内容を見ることができる。「化石燃料が無くなる」というのは、この世代の生徒たちにとって既に「常識」なので、「エネルギーを何で作っていくか」をきちんと意識しているようだ。



「燃料」と「温暖化」について

課題 訪問先とは密に連絡を　生徒たちへの動機付けも大切

訪問先を開拓し、開拓後も密に連絡をとる、という面で時間もかかり大変ではあるが、企業の方も、生徒たちに環境について知ってほしいという思いは強く、快く見学や講座を開く協力をしてくれている。また、企業の中には、生徒が移動する際のバス送迎の協力をしてくれるところもあり、非常に助かった。

企業開拓の方法は、職場体験を受け入れてくれる企業を探す方法と同じである。

しかし、キャリア教育の場合、2日間の職場体験で実際に指導するための人員確保が必要な反面、環境教育の場合は「見学」と「講座」が主な内容なので、1日もしくは半日で済み、人員の面でも企業側の負担が少ない。「環境教育についてご協力を」と依頼すると、スムーズに進めることができている。

本校では、環境への関心をもたせる動機付けとして、ゴア元副大統領の映画「不都合な真実」（地球温暖化についての内容が描かれている）を上映している。

「ハイブリッドカー」のレポート

廊下に掲示されたレポート

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

以前、企業の方から、「見学に行った班という一部の生徒たちだけではなく、ぜひ全校生徒に聞いてほしい」と提案があり、来校いただいて1年生全員を対象に講演を頂く機会がありました。

「環境」というテーマは、生徒たちにとってこれから大切な問題です。今後も、企業の協力を得ながら、より多くの機会を作っていきたいと考えています。